

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Factors Affecting Women's Satisfaction with their Marital Relationship in Japan: a Prospective Cohort Study

和文タイトル:

日本における女性の結婚満足度に影響を与える要因: 前向きコホート研究

ユニットセンター(UC)等名: 高知ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Family Issues

年: 2026

DOI: 10.1177/0192513X261444364

筆頭著者名: 池内 和代

所属 UC 名: 高知ユニットセンター

目的:

関係性の幸福度を示す重要な指標である結婚満足度は、個人的および社会的要因の影響を受ける。本研究では、日本において夫の育児支援が女性の結婚満足度に与える影響を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル調査高知ユニットセンターの追加調査の一環として、子どもの8歳学童期検査時(2019~2021年)に夫婦関係への満足度の質問票に回答した263名の母親を対象とした。妊娠期および幼児期に収集されたデータと併せて解析を行い、女性の夫婦関係への満足度は質問票得点をもとに二値化し、関連する要因を評価するため、多重ロジスティック回帰分析を実施した。結果は調整オッズ比および95%信頼区間として示した。母親の年齢、子どもの数、世帯規模、夫の喫煙状況、飲酒量、結婚期間を調整因子として用いた。

結果:

産後1ヶ月時点で産後うつ症状を有していた女性の65.4%が、産後6ヶ月時点で結婚満足度が高いと報告していた($p<0.05$)。ただし、多変量解析では産後うつと結婚満足度との間に有意な関連性は認められなかった。また、夫からの育児支援を受けていると認識している女性は、そうでない女性と比較して、結婚満足度に対する調整オッズ比が11.99(95% CI, 5.82~24.67)と有意に高かった。

考察(研究の限界を含める):

本研究の結果は、育児への夫の関与が女性の結婚満足度の向上に重要な役割を果たす可能性を示唆している。特に、父親の育児参加が家族関係の質や絆の強化に寄与する可能性がある。一方で、本研究にはいくつかの限界がある。第一に、8歳児の母親を対象とした後ろ向きな要素を含む設計であり、結婚満足度や抑うつ症状に関する回想バイアスの影響を受ける可能性がある。第二に、パートナーからの感情的支援、実用的支援などについて詳細な検討が行われておらず、支援の質的側面の理解が限定的である。第三に、多くの変数が自己報告に基づくため、測定バイアスや報告バイアスの影響を受ける可能性がある。第四に、単一のユニットセンターのデータを用いているため、本研究の結果の一般化可能性は限定的である。第五に、参加率が比較的低く、選択バイアスの影響も考慮する必要がある。

結論:

本研究では、夫の育児支援が女性の結婚満足度と強く関連していることが示され、父親の育児参加を支援する取り組みが、家族関係の質の向上につながる可能性が示唆された。核家族化が進み、外部からのサポートが限られている現代日本社会において、夫婦関係の質は極めて重要な役割を果たしていると考えられる。